

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21520777

研究課題名(和文) 出土文字資料の出典論的方法による古代信仰展開様相の研究

研究課題名(英文) Study of ancient faith by the analysis of the character was excavated

研究代表者

門田 誠一(MONTA, SEIICHI)

佛教大学・歴史学部・教授

研究者番号：00278467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円、(間接経費) 420,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では発掘調査等で出土した文字のある土器・石製品・木簡などの出土文字資料のなかで、宗教関係の語句のある事例に関して、宗教経典などとの出典論的研究を行い、所依経典を推定することによって、具体的な信仰の実態を考察した。方法としてはデータベースや発掘調査報告書等から宗教関係の語句を抽出し、関係する文献を収集した。また、それらを所蔵する各地の施設において実見調査を行った。仏典や経書に類似する語句の用例や用法を確認し、各々の出土文字資料の背景にある宗教や信仰の実態を明らかにした。結果として、古代集落遺跡において、仏典や経書を典拠とする語句がみられ、集落次元での宗教の浸透を具体的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study was aimed at investigating the character of pottery, stone products and wood strip with a character that was unearthed in excavations. The subjects in this study were found out a word or phrase in a religious from excavation reports and database. After that, Investigators check the usage and examples of words that are similar, such as Buddhist scriptures. And so revealed the reality of faith and religion in the background of the excavated material character. It was suggested that Buddhism term spreading, the reality of religious settlements in the ancient settlements around the country.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：墨書土器 木簡 刻書 出土文字資料 奈良時代 平安時代

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景として、以下の点をあげる。

(1) 方法論的背景

申請者は従前、科学研究費補助金により行ってきた高句麗を中心とした東アジアの古墳壁画と墨書銘文に対して、仏典および儒教の経書などによる出典論的研究を行った。これは本研究の方法論を胚胎しており、これが一定の成果を達成したことによって、このような研究方法を異なる地域や時期の対象に適用できることを確信した。

上記のような文字を有する考古資料を対象とした仏典や儒教の経書による出典論的研究を、日本古代の資料にも敷衍して行うことは、結果的に漢字文化圏としての東アジア地域における宗教や信仰を普遍化して位置づける研究として体系化かつ構造化することが可能である。

(2) 関連する分野および研究の現状を背景とした本研究の位置づけ

日本古代の文字を有する考古資料について、近年では知見が相次ぎ、先行研究としては平川南氏の研究(『漆紙文書の研究』1989年吉川弘文館、『古代地方木簡の研究』2003年吉川弘文館、『墨書土器の研究』2000年吉川弘文館)や高島英之氏の研究(『古代出土文字資料の研究』東京堂出版、『古代東国地域史と出土文字資料』2006年東京堂出版)などを中心として、研究の進展と整理が行なわれている。このようななかで、木簡や漆紙文書といった文字量の多い紙本に近い文字資料だけではなく、土器や石製品に記された墨書ないし線刻も一定の注意が払われるようになった。

このような研究動向のなかでも、土器や石製品に施された語句や文字は資料そのものの絶対年代比定に用いられたり、仏教等の信仰の展開を示す資料として、概括的に扱われてきた面があることは否めない。とくに文字数としては少ない土器や石製品に

記された墨書ないし線刻のなかにも、仏教をはじめとした経典を典拠として語句や文があることについては、ほとんど注意されておらず、本研究では、これらの集落次元で出土する民衆信仰を体現する資料を注視し、対象とするところに現今の学術的背景に依拠する本研究の立脚点がも定められる。

2. 研究の目的

本研究では、近年、各地の集落遺跡等で出土例が増加している奈良・平安時代の墨書・線刻遺物(土器・石製品など)として記されている語句と文章について、仏教や儒教の経典などをもとに出典と典故を求め、これによって集落次元で読誦ないし流布していた経典やそれもとづく思想や信仰の内容の復元的な研究を行う。このような方法を用いることによって、各地域の民衆次元における具体的な信仰の流布や思想の流入の実態を具体的に考察することが可能となる。

従来、古代の出土文字研究の中心は宮都・官衙や寺院などから出土する木簡や漆紙文書などが主体となっていたが、近年にいたり、集落遺跡から出土する文字資料も注視されるようになった。それらのなかでも、とくに比較的長文の内容について『論語』や『孝経』その他の漢籍史料に依拠する文章があることが指摘されている。しかしながら、現時点では、未だ文字や文章の性格づけや属性の枠づけが主体であって、とくに文字数としては少ない土器や石製品に記された墨書ないし線刻のなかにも、仏教をはじめとした経典を典拠として語句や文があることについては、ほとんど注意されておらず、さらにはこれらの文字や語句に対して具体的な典拠を明示した出典論的な研究の体系化は寡聞にして知らない。

そこで本研究では文献史料に残ることが稀な古代の集落遺跡出土の文字資料を対象とすることによって、民衆に流布してい

た宗教と信仰の様相を示し、日本古代における宗教・信仰史のみならず、生活文化史の実態を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究において設定した目標と目的を達成するために、以下のような調査・研究を行った。

東北地域から九州までの地域ごとに、出土文字資料の情報を発掘調査報告書・資料報告・博物館展示図録・論文等から博捜する。具体的には、当該地域の図書館や埋蔵文化財関係施設、国立国会図書館などにおいて、これらの文献資料を検索して、対象となる遺物の図面や事実記載、関連する考察などを抽出し、一定の集成を行った。

抽出した資料について、釈字の確定および筆画と筆順の観察のために、各地域の当該資料所蔵機関（埋蔵文化財センター、博物館、資料館など）に赴き、個別資料に対して実見や熟覧、観察等を行った。

上記の調査で収集した出土文字資料の語句と文章に対して、仏典や儒教の経書などの文章と内容との比較・対照検討を行い、出典や典故を確定する。

このような調査を東北、関東、中部・北陸、近畿・四国、中国・九州の五つの地域ごとに各年度で行う。このことによって、出典論的検討に適する出土文字資料の存在傾向を把握しつつ、個別具体的な調査・研究を行うことで、出典を有する出土文字資料の広がりから、集落遺跡等の次元で仏教・儒教などの信仰が流布した実態を解明した。

4. 研究成果

本研究では発掘調査等で出土した文字のある土器・石製品・木簡などの出土文字資料のなかで、宗教関係の語句のある事例に関して、宗教経典などとの出典論的研究を行い、所依経典を推定することによって、

具体的な信仰の実態を考察した。方法としてはデータベースや発掘調査報告書等から宗教関係の語句を抽出し、関係する文献を収集した。また、それらを所蔵する各地の施設において実見調査を行った。仏典や経書に類似する語句の用例や用法を確認し、各々の出土文字資料の背景にある宗教や信仰の実態を明らかにした。結果として、古代集落遺跡において、仏典や経書を典拠とする語句がみられ、集落次元での宗教の浸透を具体的に明らかにした。

以下、発表の年次によって成果を列挙する。まず、初年度は関東地方出土の奈良・平安時代の遺跡から出土した宗教関係文字資料についての基礎的な知見を得た。その後、文献資料検索・調査で得た資料によって、出土遺跡・遺構の事実認識と研究史の整理と把握を行った。とくに儒教的な典拠をもつ語句が仏教的な状況下で用いられている遺物（武蔵国府関連遺跡出土墨書土器）について、今年度調査した関東地域の古代文字資料との相互の比較検討と出典論的研究を経て、奈良時代における儒教経典に由来する孝思想の地方的展開と仏教的習俗である火葬と融合している点を明らかにするとともに、土器に対する墨書の書写行為の類型性から、集落内の寺院など仏教関係遺跡から出土する遺物と親縁関係があることを証した。

次に東北地方出土の奈良・平安時代の遺跡から出土した宗教関係文字資料についての基礎的な知見を得た。その後、文献資料検索・調査で得た資料によって、出土遺跡・遺構の事実認識と研究史の整理と把握を行った。とくに仏教、道教および陰陽道と関連する語句が、木簡・漆紙文書・墨書土器などにみられることに注目し、これらについての集成的研究を行った。また、前年度調査した関東地域などの古代文字資料との相互の比較検討と出典論的研究を経て、奈

良時代～平安時代における仏教、道教および陰陽道に関係する語の分布について、地方的な傾向を示し、東北地域では官衙的屬性を有する遺跡から、陰陽道関係の文字資料が出土する傾向を把握した。あわせて、仏教関係文字資料についても、他地域との比較研究を行った。これらについては、別項で示した口頭発表および論文で研究内容を公表した。

さらに中部・北陸地域出土の奈良・平安時代の遺跡から出土した宗教関係文字資料についての基礎的な知見を得た。その後、文献資料検索・調査で得た資料によって、出土遺跡・遺構の事実認識と研究史の整理と把握を行った。とくに儒教的な典拠をもつ語句が記されている出土文字資料(墨書土器・木簡等)について、前年度までに調査した他地域の古代文字資料との相互の比較検討と出典論的研究を経て、奈良時代の地方における中国古典の展開と認識について実態を明らかにした。あわせて、陰陽師などの中央政府からの専門官人の派遣以前に陰陽道に関係する中国古典や仏典に関する知識が一定程度存在したことを証した。

次に四国・近畿地方の出土文字資料の調査によって、奈良時代の墨書時に記された吉祥語を抽出し、関連資料を精査するとともに、吉祥語に関する文献・史料との関係から、史的意味を検討した。その結果、奈良時代において吉祥語は集落次元にまで浸透していることを論じた。

また、以上の調査と最終年度の九州地域の出土文字資料の調査成果を含めて、これまで言及されることのなかった「酒」字を含む墨書土器が「寺」「塔」などの仏教関係の文字資料と伴出することに着目し、それらの両者が出土する遺跡の類型化を行った。その結果、とくに東国の集落遺跡に設けられたとみられる簡単な仏教施設で酒を用いた信仰行為が実修されていることを明らか

にした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

門田誠一, 日本古代の「酒」字墨書土器と在地仏教, 佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 第10号, 1-38 (2014), 査読無

門田誠一, 墨書土器の吉祥語と史的背景-「天福来」の検討を通じて-, 佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 第9号, 1-21 (2013), 査読無

門田誠一, 日本古代における五方龍関係出土文字資料の史的背景, 佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 第8号, 5-27 (2012), 査読無

門田誠一, 陰陽道関係考古資料の基礎的考察, 佛教大学宗教文化ミュージアム紀要 第7号, 5-32 (2011), 査読無

門田誠一, 「孝酒」墨書土器の史的環境-武蔵国府関連遺跡出土資料の検討-, 佛教大学文学部論集 94号, 15-35 (2010), 査読無

[学会発表](計1件)

門田誠一, "墨書土器と古代信仰-線刻紡錘車との相関的検討-", 古代学研究会 (2010年5月15日). 大阪市立中央青年センター

[図書](0件)

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
門田誠一 (MONTA, Seiichi)
佛教大学・歴史学部・教授
研究者番号：00278467

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：